

平成 27 年 10 月 19 日

総合政策局公共事業企画調整課

平成 27 年度 次世代社会インフラ用ロボット『現場検証』を行います

『第 1 弾:水中維持管理 (河川:妙見堰)』

国土交通省では、労働力不足が懸念される中、今後増大するインフラ点検を効果的・効率的に行い、また、人が近づくことが困難な災害現場の調査や応急復旧を迅速かつ的確に実施するための「次世代社会インフラ用ロボット」の開発・導入を促進しております。

今年5月に「点検ロボット」及び「災害対応ロボット」について民間企業等への「公募」を行い、産学官の有識者からなる「次世代社会インフラ用ロボット現場検証委員会」において、「現場検証対象技術」及び「現場検証・評価方法」を審議して参りました。

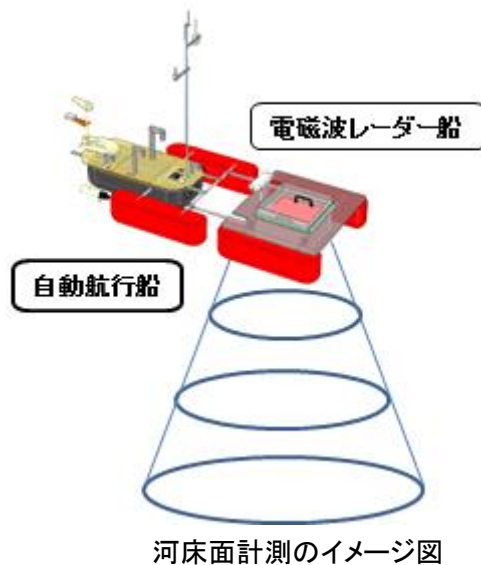
今般、直轄現場等における『現場検証』の内容が決まりましたので、お知らせします。

※ 今後、水中維持管理分野の他の検証(ダム)及び他の分野(維持管理:橋梁・トンネル 災害対応:調査・応急復旧)の日時・場所もお知らせ致します。(資料-1)

- | | |
|-------------------------------------|--------|
| 1. 日時: 10月28日(水) 9:40~14:30 | (資料-2) |
| 2. 場所: 信濃川 妙見堰(新潟県長岡市妙見町) | (資料-2) |
| 3. 実施内容: 水中点検(コンクリートの損傷や堆積状況の把握)の検証 | (資料-3) |
| 4. 対象技術: 6件 (実用検証5件、要素検証1件) | (資料-4) |

※報道関係者向けに、現場検証は公開致します。事前にお申し込みください(資料-2参照)

(今回の現場検証対象技術の例)



ASV(Autonomous Surface Vehicle);自律航行式ボート



ROV(Remotely operated vehicle)

問い合わせ先	国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課 増、中根(内 24921, 24922) TEL 03-5253-8111 (代表) 03-5253-8286 (公共事業企画調整課直通) 03-5253-1556 (FAX)
--------	---

次世代社会インフラ用ロボット開発・導入 ー施策概要ー

【現状と課題】

- ・ 少子高齢化、人口減少による建設産業における労働力不足の懸念
- ・ インフラの老朽化に対応した効率的な維持管理及び更新
- ・ 大規模災害への迅速な対応

【取組み内容】

- ・ 国交省と経産省が共同でロボット開発・導入が必要な「5つの重点分野」を策定し、これらに対応できるロボットを民間企業や大学等から公募し、直轄現場で検証・評価を行うことにより、開発・導入を促進

【5つの重点分野】

(平成25年12月24日 国交省・経産省策定)

I 維持管理

① 橋梁

- ・ 近接目視を支援
- ・ 打音検査を支援
- ・ 点検者の移動を支援



② トンネル

- ・ 近接目視を支援
- ・ 打音検査を支援
- ・ 点検者の移動を支援



③ 水中 (ダム、河川)

- ・ 近接目視を代替・支援
- ・ 堆積物の状況を把握



II 災害対応

④ 災害状況調査

(土砂崩落、火山災害、トンネル崩落)

- ・ 現場被害状況を把握
- ・ 土砂等を計測する技術
- ・ 引火性ガス等の情報を取得
- ・ トンネル崩落状態や規模を把握



⑤ 災害応急復旧

- ・ 土砂崩落等の応急復旧
- ・ 排水作業の応急対応する技術
- ・ 情報伝達する技術



【当該取組が記載されている政府の提言等】

「ロボット新戦略」(H27.2.10 日本経済再生本部決定)

「科学技術イノベーション総合戦略2015」(H27.6.19 閣議決定)

「世界最先端IT国家創造宣言」(H27.6.30 閣議決定)

実施フロー

